

平成20年度 新規採択事業 評価調書

平成20年度新規採択事業 評価調書

(平成19年度 新規採択時評価実施)

事業の概要

事業名	北部地域特定環境保全公共下水道事業		
事業区間	北部周辺地域 (大原, 静原, 鞍馬, 高雄の4地域)	延長, 幅員又は面積	整備予定面積 126ha 敷設延長 約53km
総事業費	C = 79億円	完成予定年度	平成26年度
事業概要 (目的・内容等)	市北部地域における快適な暮らしを支えるとともに, 大原, 鞍馬, 高雄などの観光地における高野川, 貴船川, 清滝川といった河川の水質を改善し, さらに市内の中心市街地を流れる鴨川等の下流の水環境を守るため, 下水道の整備を行うもの。 京都市全域の生活排水処理率100パーセントの実現に向け, 関係部局等と連携して, 総合下水処理対策を推進し, 水環境の改善を図る。		

箇所図



事業を巡る社会経済情勢等

社会背景と今後の動向	京都市では、快適で衛生的な市民生活の確保や河川の良い水環境保全のため、下水道整備区域を着実に拡大し、普及率は99.1%に達している。 しかし、比較的人口密度の高い大原、静原、鞍馬、高雄の4地域では、下水道整備を待ち望む声が大きく、とりわけ観光地は汚水量も相当量であり、下水処理対策が喫緊の課題となっている。
市民ニーズ	平成7年度以降、下水道整備の地元要望や市会への請願があり、平成13年に市会請願が採択された。これを受けて、整備手法等の検討を重ね、平成19年に「京都市北部地域等総合下水処理対策」を策定した。 本事業の実現により、市北部地域における快適な暮らしを支えるとともに、大原、鞍馬、高雄などの観光地及び鴨川等市内の中心市街地を流れる河川における良い水環境が守られる。

上位計画から見た事業の有効性

京都市基本計画		事業ごとの上位計画	具体的な効果と受益者
大項目	小項目		
☒ 安らぎのある暮らし ☐ 華やきのあるまち ☐ 市民との厚い信頼関係の構築をめざして	環境への負担の少ない持続可能なまちをつくる	京の水ビジョン 京都市下水道マスタープラン 京都市水共生プラン	市民に衛生的で快適な生活環境を提供し、市内河川の水質を保全する (受益者)：下水道整備対象住民、下流域住民、観光者

事業の要件

環境景観への配慮事項	生活排水などを適切に処理することにより、河川など公共用水域の水質を改善し、大原、鞍馬、高雄の観光地や、下流の鴨川などの良い水環境を守る事業である。 鳥羽水環境保全センターにおいて、4地域の汚水を下水道法や水質汚濁防止法を遵守した適切な水処理を行うことにより、良い水質の処理水を公共用水域へ返すことができる。
市民と行政のパートナーシップ	当該事業を位置づけた京の水ビジョンの策定において、広く意見募集を行い、意見を反映させ事業を進めている。 また、京都市水共生プランに位置づけ、良い水環境の実現に向け、市民、行政が連携して取組みを推進する。 整備の完了した地域から下水道への接続を進め、排水設備の適正な使用を促す。

事業の評価結果

評価	A
理由	- 京都市基本計画にも位置づけがあり、下水道事業の上位計画である下水道マスタープラン等でも明記している事業である。 - 水環境の向上により快適で衛生的な市民生活を確保するための事業であり、市民の生活環境の向上に、直接的、効果的に寄与する事業である。

評価指標の算定結果

費用便益比 (C/B)	B/C = 1.32
-------------	------------

事業の必要性

	評価項目	評価指標
暮らしが安心して暮らせるまちづくり	環境への負担の少ない持続可能なまちをつくる	■下水道によりし尿および生活排水を収集することにより、周辺の水環境が向上する。 (処理人口：4,310人) (整備面積：126ha) ■淀川等の下流において水道水源となる河川の水環境を向上させる。
	日常生活における身近な安全や安心を確保する	■快適で衛生的な市民生活を確保する。
魅力あふれるまちづくり	美しいまちをつくる	■都市の中心部を流れる河川の良い水環境を保全する。
活力あふれるまちづくり	産業関連都市として独自の産業システムをもつ(中心市街地の活性化)	■水環境の向上により、地域の基幹産業の一つである観光産業の振興に寄与する。 ■鴨川等、都市の中心部を流れる下流の河川の良い水環境を保全し、市街地活性化に寄与する。
	魅力ある観光を創造する	■観光地における水環境が向上し、イメージの向上に寄与する。
市民のくらしとまちを支える基盤づくり	個性と魅力あるまちづくり	■下水道事業の上位計画である下水道マスタープランが策定されており、その中に当該事業が位置づけられている。 ■行政と市民、事業者等が連携して取り組む、水に関するマスタープランである「京都市水共生プラン」に沿った対策である。 ■浄化槽等と経済性、整備効率性を比較し、処理方法を総合的に検討し、優位となった整備手法である下水道整備を進める。 ■道路整備計画等との調整を行っている。
市民の知恵と創造性を生かした政策を形成する		■当該事業を位置づけた「京の水ビジョン」の策定において広く意見募集を行い、事業を進めている。 ■事業説明を行うなどし、地元意見を反映させ事業を進めている。